



311子ども甲状腺がん 損害賠償請求訴訟

第11回口頭弁論期日
第27準備書面～ルビン論文～

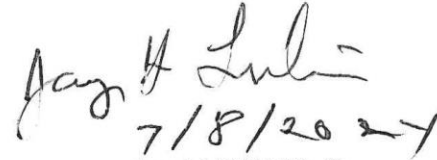
2024年9月11日

原告ら訴訟代理人弁護士 井戸謙一

7 August, 2024

Opinion

To the 32nd Civil Division of the Tokyo District Court


7/8/2024
Jay LUBIN, Ph.D.

NIH Scientist Emeritus/Biostatistics Branch
Division of Cancer Epidemiology and Genetics
National Cancer Institute, NIH, HHS
9609 Medical Center Drive, Room 7E116
Bethesda, MD 20892
<mailto:lubinj@mail.nih.gov>
tel: (240) 276-7426



Intramural Research Program
Our Research Changes Lives



Jay H. Lubin, Ph.D.
米国国立衛生研究所名誉科学者

被告の主張

原爆被爆者の疫学調査（LSS）では、**100mSv以下の被曝で発がんのリスクが増加することは確認されていない**という国際的なコンセンサスに反している

ルービン博士の回答

- ルビン論文は、低線量被曝した小児甲状腺がんに関する**9つの疫学研究のプール解析**である。
- このプール解析は、被曝に関する詳細な情報が得られている大規模解析に基づいており、**LSSのデータも含まれている**。
- たとえばらつきがあっても、全体的な結果は、**甲状腺がん発生率に対する放射線の有意な影響**を支持している。

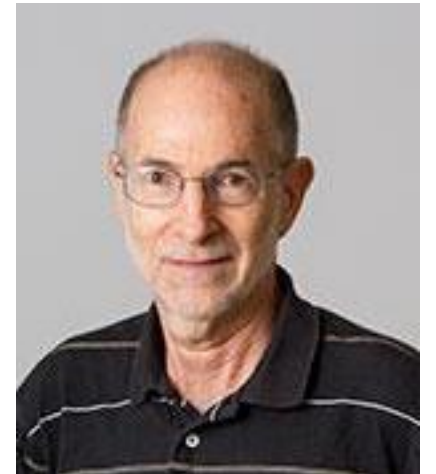


被告の主張

「100mSv以下の被曝では発がんリスクの直接的証拠はない」という**ICRPとUNSCEARの見解は、ルービン論文発表後も変わっていない。**

ルービン博士の回答

- 小児期の外部放射線被曝と甲状腺がん罹患に関する利用可能なすべての疫学研究を解析した結果、**100～200mGy未満の被曝に関しても、統計的に有意な線量反応関係が認められる。**
- 甲状腺がんについて線形線量反応関係からの逸脱を示すエビデンスはない。





「100ミリ閾値論」は誤り

被告の「100mSv閾値論」は誤りである